

第5学年2組 国語科学習指導案

日時 令和3年11月4日(木) 3校時

指導者 教諭 中村周平

場所 5年2組教室

本授業のポイント

本授業は、「固有種が教えてくれること」で使われている資料1と資料5を取り上げることで、資料の効果について考えさせる。その際に、資料1と資料5に関連する別の資料(教師が用意した資料)をそれぞれに比較することで資料選びには筆者の意図があることに気づかせる授業である。また、授業の最後の場面では、振り返りをスプレッドシートに書くこと(個別最適な学習)を予定している。

1 単元名 固有種が教えてくれること

2 単元の目標

- ・情報と情報との関係づけの仕方、図などによる語句と語句との関係の表し方を理解し使うことができる。(知(2)イ)
- ・引用したり、図表やグラフなどを用いたりして、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができる。(思B(1)エ)
- ・目的に応じて、文章と図表などを結びつけるなどして必要な情報を見つけたり、論の進め方について考えたりすることができる。(思C(1)ウ)

3 単元の全体計画(全12時間)

時	学習活動	評価の観点			1人1台端末の活用	
		知技	思判表	主体的	★協働的な学び ◆個別最適な学び	キーワード
1	学習計画を立て、目的と見通しをもつ。	○	○	○	◆	共有ドライブ
2	文章の構成を捉え、筆者の考えをみつける。		○		◆	共有ドライブ
3	中を三つに分け、筆者の論の進め方について考える。		○	○	◆	スライド 共有ドライブ
4 本時	資料の効果や資料を選んだ筆者の意図について考える。		○	○	★ ◆	スライド 共有ドライブ
5	筆者の論の進め方や資料の効果について自分の考えをまとめる。		○	○	★ ◆	共有ドライブ
6	「電話加入数の推移」の資料を生かした文章の構成を考える。		○	○	◆	共有ドライブ
7	「電話の加入数の推移」の資料を生かした文章を書いて読み合い、文章のいいところを見つける。		○	○	◆	共有ドライブ
8	これからの社会について自分の考えの根拠となる資料を選び、文章の構成を考える。		○	○	◆	共有ドライブ
9	図表やグラフを用いて、考えが伝わるように書き表し方を工夫し、下書きをまとめる。	○	○	○	◆	共有ドライブ
10	これまでに注意してきた観点を意識して下書きを読みあい、推敲する。	○	○	○	◆	共有ドライブ
11	文章を完成させる。		○		◆	共有ドライブ
12	6年生からの感想をよみ、学習を振り返る。		○		◆	共有ドライブ

4 **本時の目標** 文章と図表を結び付けて考えることで、必要な情報を読み取ること（資料の効果）ができ、筆者の説明の工夫や考え（筆者の意図）をつかみ、自分の考えをもつことができる。

5 **本時の展開**

学習活動	○教師の指導・支援 ★協働的な学び ◆個別最適な学び
1 前時の学習の振り返る。 2 めあてをつかむ。	○要旨を書いたことや学習計画を立てたことを想起させる。
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;">資料1・5から資料の効果やどうして筆者がその資料を選んでいるのか考え、話し合おう。</div>	
3 本時の見通しをもつ。 4 資料1の効果や、筆者の資料を選ぶ意図について考える。	○それぞれの資料からどんなことが読み取れるかを考えさせる。 （資料の効果） ○日本とイギリスの陸生ほ乳類の図を添付した文章を提示して、筆者が資料1（図表）を用意した理由を考えさせるようにする。 ○比較する資料を提示し、筆者の意図を考えるようにする。 ○付箋を使い、個人で気づいたことや考えたことを書き込めるようにする。児童が書き込める付箋を2種類用意する。（ピンク…図について、黄緑…表について）
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <ul style="list-style-type: none"> ・筆者は、イギリスと日本を比べているので、2つの国の位置が分かりやすいような図を選んだと思う。 ・筆者は、具体的な固有種の数の説明したいので、表を使うことで目で比べて分かりやすいように表を選んでいると思う。 ・先生が作成した資料は、必要以上に色や文字が使われていて色んなところに目を奪われて筆者の伝えたいことからずれるからだめじゃないかな。 ・数値は文に書くだけでなく、表に表すことで比較しやすくなるから、入れないと筆者の伝えたいことが分かりにくいよね。 </div>	
5 それぞれの考えを出し合う。 <グループタイム> <みんなでタイム>	○グループで付箋を貼りながら、話ができるように、話し合いシートを用意する。 ○図を選んだ意図と表を選んだ意図を分けて板書する。 ○資料と文章がつながっていることをおさえる。 ○比較する図では、不必要な情報が含まれていて、筆者の考えには不適切であること。資料選びには筆者の意図が表れていることをおさえる。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>評価基準 文章と図表を結び付けて考えることで、必要な情報を読み取ること（資料の効果）ができ、筆者の説明の工夫や考え（筆者の意図）をつかむことができる。（思考・判断・表現）</p> <p>A 図・表・写真それぞれの良さを理解し、筆者が資料を選んだ意図について叙述をもとに考えることができる。</p> <p>B 筆者が資料を選んだ意図について叙述をもとに考えることができる。 →資料はどの文章に結びついているか一緒に考える。</p> </div>
6 学習のまとめ	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>筆者は自分の伝えたいことに合わせて、図・表・写真それぞれの良さを考えて選んでいる。</p> </div>
7 学習の振り返り	◆スプレッドシートに振り返りをかかせるようにする。

6. 成果と課題

○成果

- ・スプレッドシートの可能性について考えることができた。
 - ① 振り返りの場面にスプレッドシートを使うことで、自分の毎時間の振り返りを書き溜めることができる。そのため、教師は振り返りから、児童一人一人の単元に関する学びの変容をみることができ、どのように考えが変化してきたのか分かりやすい。
 - ② スプレッドシートに教師のコメントや色分けすることができる。そのため、児童は、教師のコメントを気にするようになり、自然と前時の振り返りができる。また、次の授業の初めに、前時の振り返りとして児童の書いた内容を提示して確認することでき、全体で簡単に考えを共有しやすい。
 - ③ スプレッドシートは個別最適な学びとして適切であった。児童一人一人の振り返りが一枚のシートの中にあるので、何を書けばよいか迷っている児童は、友だちの書いている内容を見ることができ、自分の振り返りの参考にすることができる。友だちの考えにタブレットを通して簡単に触れることができることのメリットは大きい。
- ・授業の終末にタブレットを使つての実践には大きな意味があった。(これまでは、授業の中場面や話し合いの場面で使われることが多かったが、あえて振り返りの場面にも使うことで、タブレットの有用性を確認することができた。)

○課題

- ・事後研でも出たが、今回は授業の話し合いの場面で模造紙と付箋を使った話し合いを行ったが、タブレットよりもそちらが良かったから使わないではなく、タブレットだからこそ、こんな話し合いができるというところ見せるべきであった。
- ・今回の単元は、図や表や写真といった資料がたくさん出てくる単元なので、そこを意識して、教科書やノートだけでなくタブレットを使用して、もっと児童の学びの質を高める使い方はできなかったのかを考えるべきであった。
- ・児童がローマ字を入力する時間には個人差がある。また、タブレットの操作にも個人差があるので、そのあたりをどのように力をつけてあげるか。
- ・タブレットスキルには個人差がある。学年が上がるほど、内容が高度なものなり、多教科にわたるので、早くから、どの学年で、どんな力をつけてあげるのかを考えておく必要があり、教師同士で共通の認識を持つておく必要がある。(先生によっても違いがある。)